



サステナブル消費でSDGsに貢献！

- ◆ 製造や流通の過程（サプライチェーン）で環境や社会に配慮すること、また、そうして供給されるモノやサービスを利用することは、SDGsでも「**目標12：つくる責任、つかう責任**」として位置づけられています。
- ◆ 東京2020大会においても、「持続可能性に配慮した調達コード」の運用を通じて、サプライチェーンにおける環境や社会への配慮を推進しており、特に、木材や食材などについては個別の調達基準を作っています。
- ◆ 持続可能な形で生産されたことを確認するための有効なツールとして認証制度があり、組織委員会の調達基準でも採用しています※。日本の消費者が、こうした認証制度も活用して、**持続可能性を考慮した消費活動を実践することで、生産現場の改善を後押しすることができます。**
- ◆ 多種多様な認証制度があるため、すべてを紹介することはできませんが、ここでは、東京大会の調達で採用している認証制度を紹介しています。

※認証制度以外の方法で持続可能性を確認する方法も認めています。調達コードの詳細は組織委員会ウェブサイトをご参照ください。
(<https://tokyo2020.org/ja/games/sustainability/sus-code>)

認証スキーム		概要	東京2020大会での活用対象
FSC®		FSC (Forest Stewardship Council®) は、環境保全の点から見て適切で、社会的な利益に適い、経済も持続可能な、適切な森林管理を普及するための国際的な森林認証制度です。 (FSC®N003155)	木材／紙
PEFC		PEFC (Programme for the Endorsement of Forest Certification) は、持続可能な森林管理のために策定された国際基準に則って、各国独自の森林認証制度を承認する国際的な仕組みです。	木材／紙
SGEC		SGEC (Sustainable Green Ecosystem Council) は、日本の自然的社会的条件を踏まえた日本独自の森林認証制度です。PEFCと相互承認しており、SGECの認証材は国際的にPEFCの認証材として流通可能です。	木材／紙
ASIAGAP		ASIAGAPは、2018年にGFSI (Global Food Safety Initiative) からアジアで初めて承認を受けた日本発のGAP*認証制度です。食品安全、環境保全、労働安全、人権福祉、農場運営の要素を含んでいます。	農産物
JGAP		JGAPは、食品安全、環境保全、労働安全、人権福祉など持続可能な農場運営への取り組みを認証する、10年以上の歴史を持つ日本発のGAP認証制度です。農産物と畜産物の認証基準があり、畜産物には家畜衛生とアニマルウェルフェアの要素が含まれます。	農産物／畜産物
GLOBALG.A.P.		GLOBALG.A.P.は、国際的に広く認知・信頼されている認証制度です。基準は、食品安全、環境サステナビリティ、労働安全衛生、動物の福祉、サプライチェーンの透明性を網羅します。安全で責任ある農業を通して、世界中の生産者、小売、消費者に貢献することを目指します。その認証には、農作物の他、花卉、水産養殖、畜産があります。	農産物／畜産物
SQF		SQF (Safe Quality Food) は、世界食品安全イニシアティブ (GFSI) がベンチマークし、コーデックスのHACCPとGAPに準拠した食品安全認証規格です。東京大会の調達基準に対応するためのサステナビリティ補遺を設けています。	農産物／畜産物 (牛、鶏、豚)
LPA		LPA (家畜生産保証制度) は、食の安全、周辺環境への配慮、動物福祉などを含むオーストラリアの農場保証プログラムです。	(豪州産の) 牛肉
NFAS		NFAS (全国肥育場認定制度) は、食の安全、周辺環境への配慮、動物福祉などを含むオーストラリアの肥育場のための品質保証プログラムです。	(豪州産の) 牛肉
バナナの適正農業規範 (TGAP)		TGAPは台湾のGAP認証スキームで、リスク要因を効果的に排除、環境への影響を低減し、農産物の安全性と品質を確保します。このスキームでは、認証された製品にTAP(追跡可能な農産物)マークが付けられます。バナナ用の「2020 PLUS版」は、東京2020大会の調達基準に対応しています。	(台湾産の) バナナ

認証スキーム		概要	東京2020大会での活用対象
SSAP		SSAP認証は、持続可能な大豆生産の国際認証でサステナビリティと保全に関する連邦政府の法規制に基づいています。生物多様性と炭素貯蔵量の多い生産、持続可能な生産活動、労働者の人権や健康福祉、生産活動及び環境保全の継続的な改善等に対応しています。認証マークは認証を受けた大豆を含むすべての製品に使用できます。	(米国産の) 大豆
国際フェアトレード認証		国際フェアトレード認証 (Fairtrade Certification) は、持続可能な社会を目指し、開発途上国の生産者への適正価格の保証や児童労働の禁止など、人権・社会・経済・環境に配慮した生産と取引を促進する認証基準です。	(海外産の) コーヒー、茶、カカオ、果物など
レインフォレストアライアンス		レインフォレストアライアンスは、社会的および市場の力を利用して自然を保護し、農家や森林コミュニティの生活を改善することで、より持続可能な世界を創造しています。レインフォレスト・アライアンス認証のコーヒー、紅茶、バナナ、他の製品を選択すると、農村地域社会と環境のより良い未来に貢献できると確信できます。	(海外産の) コーヒー、茶類、カカオ、果物、パーム油など
RTRS		RTRS (責任ある大豆に関する円卓会議協会) の責任ある大豆生産に関する規格は、RTRS大豆が最高の環境基準 (第三者に検証された森林破壊ゼロ及び転換ゼロの保証を含む) だけでなく、広範囲にわたる社会的要件と労働要件も満たしていることを保証します。	(海外産の) 大豆
MEL		MEL (Marine Eco-Label Japan) は、資源と生態系の保全に配慮した漁業・養殖業を認証する日本発の水産エコラベルです。多様性に恵まれた日本の風土文化 (魚種・漁法・水産業) を反映しています。	水産物
MSC		MSC (海洋管理協議会) は、将来の世代まで水産資源を残していくために、認証制度と水産エコラベルを通じて、持続可能で適切に管理された漁業の普及に努める国際的な非営利団体です。	水産物
AEL		AEL (Aquaculture Eco-Label) は、環境に大きな負担をかけず、労働環境へ配慮した養殖を認証する日本発の水産エコラベルです。	水産物
ASC		ASC (Aquaculture Stewardship Council) は、環境や地域社会や人々に配慮した、責任ある養殖により生産された水産物を対象とする国際的な認証制度です。	水産物
BAP		BAP (Best Aquaculture Practices) 認証は、責任ある養殖事業の発展のために活動する世界養殖連盟 (Global Aquaculture Alliance、通称GAA) が運営する第三者認証です。環境や社会的責任のほか、食品安全、動物福祉、トレーサビリティの観点を包括的にカバーします。	水産物 (養殖魚類・甲殻類)
ISPO		ISPO (持続可能なパーム油のインドネシア基準) は、インドネシアの持続可能なパーム油認証協議会 (ISPOCC) により運営されている国の認証制度であり、持続可能なパーム油ビジネスの国際標準を開発・実行するため、合法性、GAP、環境、労働、社会経済及び透明性を満たすパーム農園、生産者及び加工企業を認証しています。	パーム油

認証スキーム		概要	東京2020大会での活用対象
MSPO		MSPO（持続可能なパーム油のマレーシア基準）は、マレーシアのパーム油認証協議会（MPOCC）によって管理されている国の認証スキームであり、合法性や環境・社会等に関する基準を満たすパーム農園及び加工施設を認証します。	パーム油
RSPO		持続可能なパーム油に関する円卓会議（RSPO）は、非営利の国際会員組織であり、パーム油産業のさまざまなセクターの利害関係者（生産者、加工業者およびトレーダー、消費者製品製造業者、小売業者、銀行/投資家、環境/社会NGO等）が一体となって、持続可能なパーム油生産を実現するためのグローバルな基準を開発し実行しています。	パーム油

※GAP (Good Agricultural Practice) : 農業における食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組み

※東京2020大会の「持続可能性に配慮した調達コード」における各認証制度の位置づけについては、以下をご参照ください。

<https://tokyo2020.org/ja/games/sustainability/sus-code>

※上記の全ての認証制度の認証品が東京2020大会で実際に調達されることを保証するものではありません。